

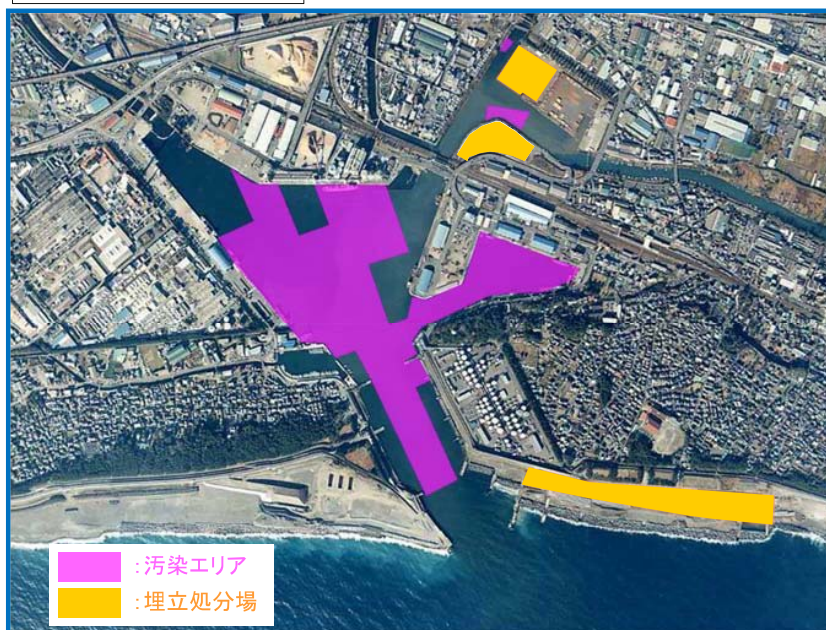
事業箇所 位置図



事業概要

環境基準値(150pg-TEQ/g)を超過するダイオキシン類汚染海底土砂を除去し、周辺環境に影響を生じさせないように適切な処分場に埋立処理する。
→ 住民の安全・安心な生活の維持、港内や周辺海域の自然環境の保全

田子の浦港・全景

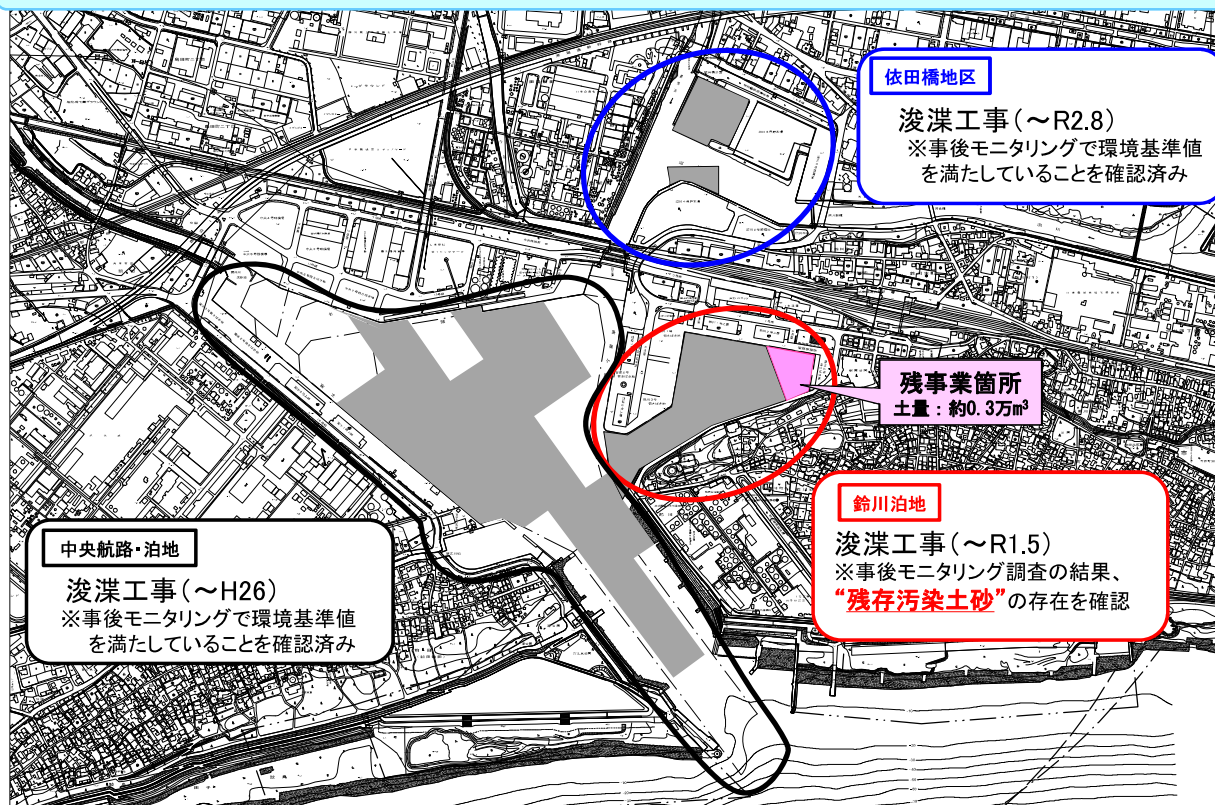


施工状況



事業の進捗状況 (R2.11現在)

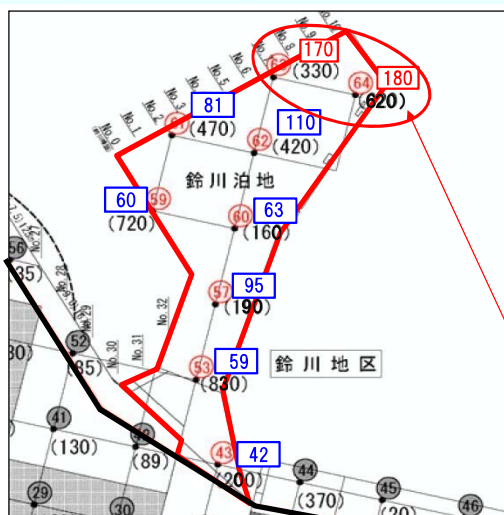
全汚染土砂54.2万m³のうち、**53.9万m³の除去が完了** (進捗率約99%)



鈴川泊地の残存汚染土砂について

◆ 鈴川泊地の事後モニタリング結果

→ 9地点中2地点で環境基準値 (150pg-TEQ/g) を超過



鈴川地区 モニタリング結果一覧表

調査地点 番号	Dxn類濃度 (pg-TEQ/g)	
	事前 (H14)	事後 (R1)
43	(200)	42
53	(830)	59
57	(190)	95
59	(720)	60
60	(160)	63
61	(470)	81
62	(420)	110
63	(330)	170
64	(620)	180

◆ 残存の原因分析結果

グラブ浚渫で除去しきれなかった**細粒土砂***が海底に薄層で堆積⇒ **追加浚渫が必要**

※ダイオキシン類汚染物質は、細粒土砂に付着しやすい性質を持つ

◆ 追加浚渫の工法選定

細粒土砂が確実に除去できる『**水中ポンプ浚渫工法**』を採用

事業計画の変更

■事業費・事業期間の変更

	従前計画	変更計画	差
事業費	100.7億円	104.1億円	+3.4億円 (+3.4%)
事業期間	H15~R2 (18年)	H15~ R4 (20年)	+2年 (+11.1%)

■事業スケジュール

工種	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	備考	
調査・設計	■	■								■									■			追加調査（原因分析・工法検討）
浚渫工																						
中央泊地・航路																						H27完
鈴川泊地																					■	追加浚渫
依田橋地区																					■	R2完
埋立処分工																						
鈴川海岸処分場																						H25完
依田橋水面処分場																						H28完
沼川4号処分場																					■	約1年の遅れ
事後モニタリング																					■	追加モニタリング（鈴川泊地の追加浚渫分）
クリーン宣言																					■	約2年の遅れ

事業により期待される効果(1/4)

■貨幣換算可能な事業効果

(1) 海底部の環境改善便益

- ・住民の安全・安心な生活の維持
- ・港内及び周辺海域の自然環境の保全

➡ 今回、便益として算出

(2) 残存価値(新たな土地の造成)

■その他の事業効果

事業完了後に予定の“クリーン宣言”によるイメージアップ効果

- 事業完了後は、年間数万m³の維持浚渫が必要。
- 浚渫土砂は、公共事業の盛土材等として有効利用を図る方針
- クリーン宣言などの広報活動により、浚渫土砂の受け入れに対する理解促進への効果が期待される。

事業により期待される効果(2/4)

(1) 海底部の環境改善便益

① 算定方法(概要)

受益者数 × 支払意思額

※受益者を対象としたアンケート調査(H28実施)により支払意思額を算出(CVM)

※受益者:富士市民102,063世帯(H27.10.1時点)

◇富士市位置図(受益者の居住地域)



② 算定結果

配布数:1,475世帯(※無作為抽出による)

回答数:694世帯(回収率47.1%)

有効回答数※:286世帯(※支払意思額に係る設問)

信頼度:90%

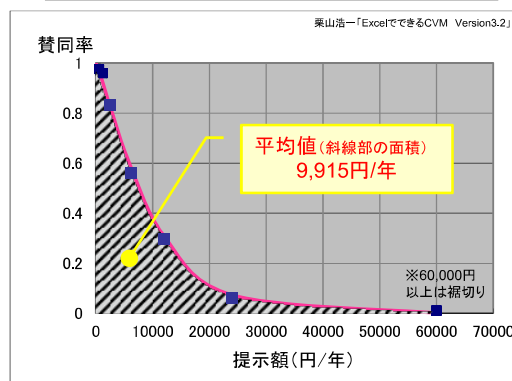
支払意思額:9,915円/年・世帯

※賛同率曲線参照

∴102,063(世帯) × 9,915(円/年・世帯)

= 10.12 億円/年 ⇒ **便益**

◇アンケート結果による賛同率曲線



事業により期待される効果(3/4)

(2) 残存価値(新たな土地の造成)

① 計測方法(概要)

(新たに創出される土地の面積) × (土地単価)

※新たに創出される土地:依田橋水面貯木場処分場

※土地単価:周辺地域の不動産取引価格より設定

② 算定結果

新たに創出される土地の面積

・依田橋水面貯木場処分場:2.0ha

・土地単価:24,000円/㎡

∴20,000㎡ × 24,000円/㎡

= 4.80 億円 ⇒ **便益**

水面埋立処分場A=2.0ha
※埋め立て前は水面(海面)



事業により期待される効果(4/4)

総費用(C) = 158.3億円

○事業費※ : 158.3億円

※各年度の整備費を現在価値(R2)に換算し、社会的割引率を乗じたものの合計

総便益(B) = 201.2億円

○海底部の環境改善便益※¹ : 200.6億円

○残存価値※² : 0.6億円

※供用後50年間における各年度の便益を現在価値(R2)に換算し、社会的割引率を乗じたものの合計

総費用(C)に対する総便益(B)

B/C = 1.3

EIRR = 4.9%

事業に対する関係者意見

○当事業の主な関係者に対するアンケート結果(令和2年10月実施)

(漁業関係者)

・事業の大部分が完了しているので、最後まで完成させてほしい

(港湾及び荷役関係会社)

・安全で安心して働くことができる港にしてほしい

・自然環境の為に事業を推進してほしい

・早期に汚染土砂除去を完了させ、安全な港にしてほしい

(地域住民)

・事業を中止することなく、早期完成をお願いしたい。

・安全・安心が基本。地域に不安を与えないためにも適時・的確な情報提供をお願いしたい。

・田子の浦港は、富士市の産業・観光発展の鍵になる。そのためにも汚染土砂の早期除去をお願いしたい。

今後の事業進捗の見込み

○事業の進捗状況(令和2年度末見込み)

【事業費】96.7% (R2末見込: 10,067百万円/10,407百万円)
【事業量】99.4% (R2末見込: 53.9万m³/54.2万m³)

○今後の進捗の見込み

汚染土砂54.3万m³の99%について除去が完了した。
残り約0.3万m³の除去についても、対応方針が決まったことから国に必要な
予算要望をあげており、残りの工事を計画的に推進することにより早期環境
基準の達成に努める。

新たなコスト縮減・代替案立案等

水中ポンプ浚渫は、多量の水分を含んだ泥土を吸い取ることになるため、
その分、中間処理(分級脱水)量が多くなる(通常10倍程度)。このため、
吸い取った泥土を沈澱させて水分を取り除くことにより、処理量の減量化を
図るなどコストの縮減に努める。

対応方針(案)

(1) 対応方針(案)

本事業を **継続** する。

(2) 理由

費用対効果も十分に認められ、海底部の環境改善に
対する地域住民の期待も非常に大きいため、事業継続
とする。